



2021年10月末の信用金庫の預金・貸出金動向（速報）

－ 預金は2.6%増、貸出金は1.2%増に －

井上 有弘

ポイント

- 2021年10月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は、160.4兆円、前年同月比2.6%増となった。貸出金は、78.5兆円、同1.2%増となった。預金残高は、月末ベースで過去最高額となった。
- 預金者別にデータが把握できる21年9月末までの動向をみると、法人預金の増減率が、コロナ禍の資金繰り資金で大きく上昇した後、低下している。同様に貸出先別貸出金の動向をみると、資金繰り支援で大きく膨らんでいた企業向け運転資金の増減率は同4.9%増にまで低下した。
- 業態別にみると、各業態の預金、貸出金ともコロナ禍での前年同月比増減率の上昇と低下は一巡している。なかでも都市銀行の貸出金は、21年5月末以降、2%を下回る減少が続いている。

1. 10月末の信用金庫の預金・貸出金

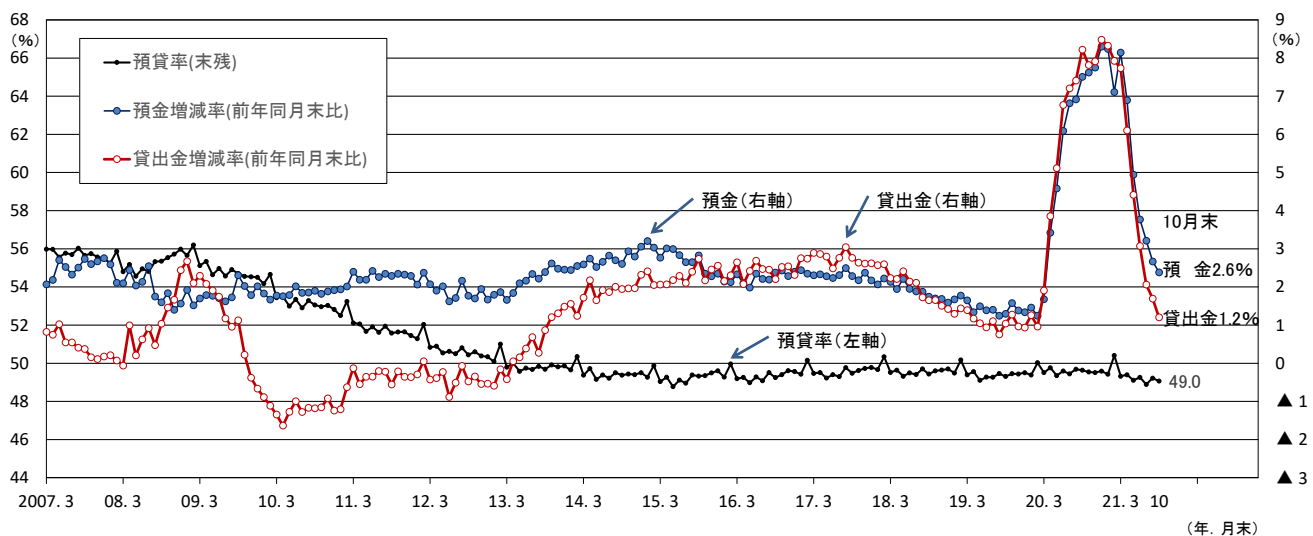
国内の新型コロナウイルスの新規感染者数は2021年9月中に大きく減少し、10月以降、すべての地域で緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が解除されている。11月1日には、国内の1日の新規感染者数が20年6月27日以来100人を下回るなど、現状、感染状況は落ち着いてきている。

コロナ禍の経済対策や資金繰り支援によって急増していた信用金庫の預金、貸出金についても、前年同月比増減率の動きは一巡した。

21年10月末の全国254信用金庫の預金残高の合計は、160.4兆円、前年同月比2.6%増となった。貸出金残高の合計は、78.5兆円、同1.2%増となった(図表1)。前月9月末の増減率は預金が同2.6%増、貸出金が同1.6%増だったので、預金は横ばい、貸出金は鈍化した。

預金残高は、21年8月末の160.1兆円を上回り、月末ベースで過去最高額となった。貸出金残高は、前月9月末残高(78.6兆円)を約1,300億円下回ったものの、高い水準で推移している。

(図表1) 信用金庫の預金・貸出金増減率の推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 預金者別・貸出先別の動き

預金者別データが把握できる21年9月末までの動向をみると、預金全体の約2割を占める法人預金の増減率が、コロナ禍の資金繰り資金で大きく上昇した後、低下している(図表2)。

21年9月末には前年同月比で3.9%増と、20年4月末の同4.0%増とほぼ同水準にまで低下した。一方、約4分の3を占める個人預金は、9月末で同2.2%増となった。個人や個人事業主向けの給付金や支援金の滞留、消費抑制などからコロナ禍前の1%台前半を上回っている。

同様に9月末までの貸出先別貸出金の動向をみると、資金繰り支援で大きく膨らんでいた企業向け運転資金の増減率は同4.9%増にまで低下した(図表3)。他方、企業向け設備資金は20年11月以降、前年同月比で減少が続いている。個人向け貸出は、住宅ローンが底堅く増加を続け、消費者ローン等の減少率が縮小したため、21年6月以降は増加に転じている。

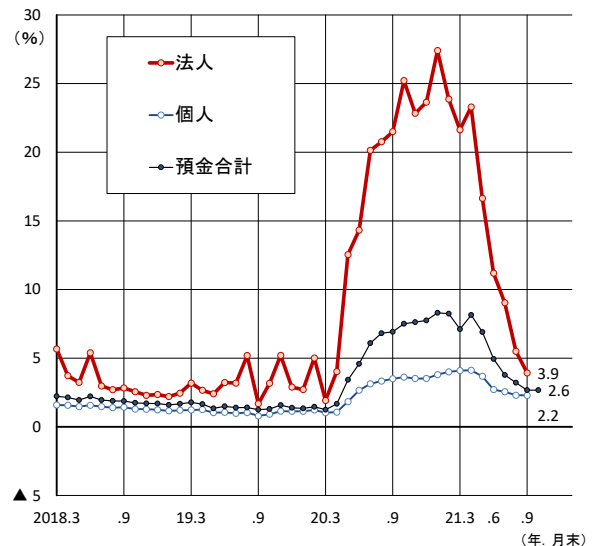
3. 業態別の預金・貸出金動向

全国銀行協会が発表した銀行の動向をみると、全国銀行110行の10月末の預金合計は857.2兆円、前年同月比で3.8%増、貸出金合計は533.5兆円、同0.1%増となった。

業態別にみると、各業態の預金、貸出金ともコロナ禍での前年同月比増減率の上昇と低下は一巡している(図表4)。なかでも都市銀行の貸出金は、21年5月末以降、2%を下回る減少が続いている。以上

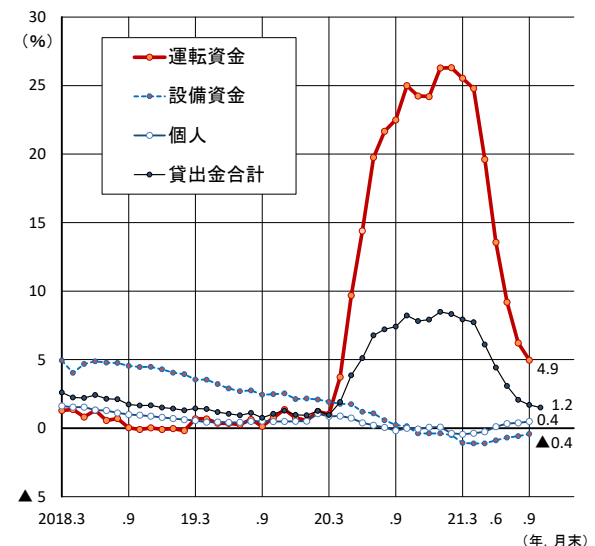
※「信用金庫地区別預金・貸出金(残高)」、「信用金庫預金、現金、貸出金残高(地区・都道府県別)」を信用金庫に還元しております。併せて、ご活用ください。

(図表2) 預金者別預金動向(前年同月比増減率)



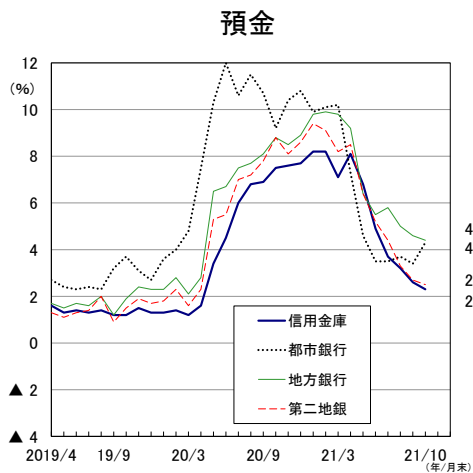
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表3) 貸出先別貸出金動向(前年同月比増減率)

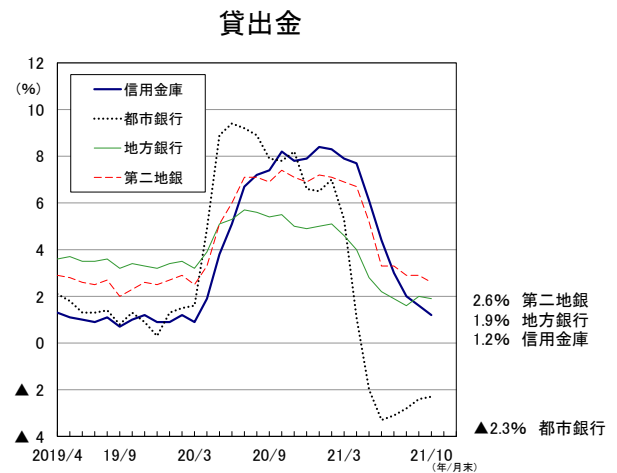


(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表4) 業態別の預金・貸出金動向(前年同月比増減率)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成



本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。